宝生会月並能

二〇一九年九月八日（日）
開演　十四時
開場　十三時十五分
於　宝生能楽堂

江口　14:00

〃　渡邊　茂人
ツレ　水上　優
シテ　小林与志郎

ワキ　高井　松男
大鼓　安福　光雄
小鼓　観世新九郎
笛　一噌　庸二
間　山本　則重

後見　前田　尚廣
金井　雄資
小倉伸二郎

地謡　亀井　雄二
和久荘太郎
小林　晋也
山内　崇生
大坪喜美雄
三川　淳雄
亀井　保雄
東川　光夫

演目の解説

能「江口」（えぐち）
旅の僧が、摂津国江口の里にやって来ます。昔西行法師がここにて宿を借りようとして断られ、その時詠んだ歌を僧が口ずさんでいるところを、若い女が呼び止めます。女は宿を断った理由を正し、自らは江口の遊女の霊であると明かし、消え去ってしまいます。僧が夜もすがら回向していると、淀の川瀬に浮かぶたくさんの屋形舟の中にひとき神々しい遊女たちが現れ、万物の流転、人生の儚さを嘆き舞を舞い、僧の前で普賢菩薩の姿となって白象に乗って西の空に去って行きます。

鐮腹　16:00

山本　則俊

山本　則重
若松　隆

〈休憩十五分〉

鵺　16:40

シテ　藤井　雅之

ワキ　福王　和幸
大鼓　亀井　実
小鼓　住駒　匡彦
太鼓　桜井　均
笛　寺井　義明
間　若松　隆

後見　宝生　和英
大友　順

地謡　澤田　宏司
高橋　憲正
小倉健太郎
野月　聡
朝倉　俊樹
田崎　隆三
武田　孝史
高橋　亘

狂言「鐮腹」（かまばら）
妻が棒（おおこ）を振り上げて、夫を追ってくる。仲裁人が理由を聞くと、「夫は仕事もせず、山へ薪（たきぎ）取りにも行かない。あのように役に立たない男は殺して私も死ぬ」と言う。仲裁人は夫の太郎に鎌を持たせて山へ行かせる。しかし、夫の太郎は、妻から受けた侮辱に耐えるよりは死んだほうがましだと自殺を決意し、いろいろな方法を試みる…。妻はわわしい女だが、夫思いの心根もありそう。夫婦のいさかいの狂言風な描写。

能「鵺」（ぬえ）
芦屋の里で宿を借りようとした僧は、里の人に断わられ、化け物が出ると警告されながらも無住の堂に泊まります。その夜里人の言った通り、不気味な様子をした者が舟に乗って現れ、僧の問いに答えて自分は源頼政に退治された「鵺」の亡霊であると明かし、仁平の御所の上空で黒雲に潜んでいたところを頼政の打ち落された鵺は、猪早太にとどめをさされ、その正体を現し事を語りまれます。その夜の様子、頼政は名を上げたが、自らはうつお舟に入れられて、射落とされたときの様子を語って去って行き、淀川に流された有様を語って去って行きます。

次回予告

二〇一九年九月八日（日）十四時始

六浦　宝生和英
自然居士　今井泰行

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

終演予定　十七時四十分頃